

試験時間

90 分

注意事項 1 解答用紙、草稿用紙ともに受験番号と氏名の記入を忘れないこと。

2 問題用紙、草稿用紙は解答用紙とともに机の上に置いて退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

表現は慎重であるべきだが、元ハンセン病患者達は滅びて行く存在である。たとえば所内で結婚することの条件として課された断種手術の結果、彼らは子供を持ってない。自分の遺伝子を引き継ぐ子供に死後の未来を(自らの責任を先送りする形で、だらしなく)託すことは出来ない。自分の力で人生を切り開き、自分の代でそれを完結させなければならない立場に彼らはあ

る。そんな事実のリアルな認識が彼らを倫理的な存在にしている、そう感じるのが取材では多かった。強制的に隔離された元患者は地縁、血縁から引き離された。それは彼らの人生において恨んでも恨みきれない出来事だったろう。しかし、ルサンチマンだけでは、その人生は虚しい。寿命が尽きれば跡形もなく消えてしまう自分の生をいかに充実させ、その痕跡を歴史の中に残すか。そうした「終わり」を視野に入れた発想が、たとえば創作活動に彼らを取り立て、多くの良質なハンセン病文学の結実を生んだし、一方でハンセン病療養所という彼らの生活空間を、生まれながらの血縁、地縁から切り離された多様な生立ちの者同士で共に暮らしつつ生を全うしようとする、多彩な他者同士が共生する極めて都市的な空間にと首て上げたのではないか。

そこに終末論の世俗化とでもいうべき構図をみる。終末論とは世界が終ることを信じて、それを前提として繰り広げられる思考法である。

(中略)

確かに四五年七月一六日にニューメキシコ、トリニティサイトで実施された最初の核実験以後、世界は「原子力の日光」に照らされることになったのだ。核エネルギーは解放された。それは清水幾太郎が述べていたように人類が「自殺装置」を手に入れたということだ。自殺装置は核兵器だけを意味しない。原子力発電所も、人類を破壊させるに足る量の核分裂生成物を内部に貯めこんでいる。反核運動家が願うように原発を停止したとしても核分裂生成物は残り、その絶対安全な処理方法は確立されていない。つまり、ひとたび核エネルギーを原子核内に閉じ込めていた封印が剥がれてしまえば、地球規模の破壊は故意でなくとも可能となる。核エネルギー利用が、そのようなスケールの技術であることはまずリアルに認識すべきだろう。

そして――、先にハンセン病療養所では終末論が世俗化されていると書いた。それに倣って言えば、核の封印が切られたことは終末論的思考の脱(国家、民族……)共同体化、つまりは普遍化をもたらしたのだ。核エネルギーの解放後、世界の終わりは人間の力で迎えられるようになった。その「終わり」は地球市民いずれにも「公平」に訪れる。原子力の日光に照らされている世界とは、日常の中に「終わり」の可能性が遍在している世界でもあるのだ。

そうした事実を前提とする時、私たちはハンセン病療養所の元患者たちと同じく終末論的思考を日常に及ぼすことが出来るはずなのだ。ハンセン病療養所と同じく、問題解決を先送りせず、今、そこにある生の充実を優先させて、価値観の違いを越え、最小の権力装置で相互の利害を調整しながら生きる都市共同体を作れるはずなのだ。(中略)

しかし、そうした気運はどこにも見当たらない。価値観の相違は増幅され、むしろ冷戦後に多くの地域紛争を導いている。そんな国際情勢に加え、人々の思考法にも問題を感じる。核の時代に至って、なお人類に未来は永遠に続くべきだと根拠もなく前提にする思考が育まれるのはなぜなのだろう。たとえば核の廃絶を求める市民運動家は「自分たちの子供達に核のない未来を」というようなスローガンを疑いもなく使う。だが、未来を破壊させられる市民運動家は「自分たちの子供達に核のない未来も変わらぬ」ということはもはや自明ではない。未来が存在するに値すれば、それを求めることも正当化されるが、存在するに値しない未来であれば、人類はそれを放棄することも可能なのだから。核時代に、自分たちの今の社会の延長上に導かれるだろう未来は、本当に存在するに値するものか、人類は未来にも生き続けるに値するか、ラディカルに問われるべきなのだ。

そうした問いと向かい合って生きる真摯さこそが核時代には要請される。未来が今と同じく続いてゆくことをあたかも自明の善と信じて疑わない姿勢は、そうした真摯さの対極にあるように思う。だからもどかしい。

出典・武田徹 私たちはこうして「原発大国」を選んだ 増補版「核論」 中央公論新社 二〇一一年五月一〇日発行

問一 文章に見合うタイトルを二〇字以内でつけなさい。

問二 作者の考える終末論的思考とはどのようなものか。二〇〇字以内で述べなさい。

問三 核時代にあつて、医師としてできることは何か。六〇〇字以内で述べなさい。

試験時間

90分

注意事項

- 1 解答用紙、草稿用紙ともに受験番号と氏名の記入を忘れないこと。
- 2 問題用紙、草稿用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問に答えなさい。

ちよつとしたことがきつかけで、長年忘れていたことを思い出すことがある。このように潜在記憶は、ひよんなことをきつかけにして意識上に姿をあらわす。

私は、潜在記憶を刺激する方法として、よく本を読む。本を読んで、そこに書かれている知識や体験を吸収しようというのではない。本に書かれていることを刺激して、潜在記憶を撻拌し、自分自身の中から何かを引き出すのが目的だ。

本を読むと、さまざまな連想が働き、忘れていたことを次々に思い出す。「何か似たようなことがあった気がする」「そういえば、こんなこともあったな」「あのやり方が使えるかもしれない」「そうだ、こんな分類はどうだろう」といった具合に、本に書かれていることが刺激となって、自由連想のネットワークが動き出し、潜在記憶が活性化される。

本に限らない。映画を観ても、テレビドラマを見ても、潜在記憶が刺激される。映画そのもの、ドラマそのものに集中し、楽しみながらも、自由連想のネットワークが自動的に動き出し、自分の中の潜在記憶がふと蘇ることがある。

多くの発想は、そんな具合に自分自身の中から引き出されるものである。私たちの記憶には、生まれてから数十年もの間、日々経験してきた事柄が詰まっている。そのほとんどは意識されることなく、潜在記憶の形で眠っている。まさに「眠れる発想の宝庫」である。大切なのは、普段意識に上らないものを意識上に引き出すことである。そのために、さまざまな刺激を利用するのだ。

人に会って話すというのも潜在記憶の活性化のために有効な方法だ。相手の言葉や相手が語るエピソードを刺激にして、潜在記憶から関連するものが引き出される。自分ひとりでは得られないような刺激が得られ、そこから連想のネットワークが膨らんでいく。そこに自分自身の潜在記憶の何かが引っかかる。

場所というのも強力な刺激となる。場所というのは、そこで起こった出来事やそれにまつわる思いと密接に結びついている。

はるか昔に訪れた場所を久しぶりに訪れると、長年すっかり忘れていたその当時のことが、部分的にはあるが、鮮やかに蘇る。あたかも当時の記憶がその場所に保管されていたかのように。

ゆえに、発想を得るために場所と記憶の連合を利用するという手がある。

たとえば、海について調べているなら、海に関する資料に目を通したり、パソコンを通して海に関連する情報を検索するだけでなく、実際に海に行ってみるのもよい。現実の海に何かヒントが転がっているだけでなく、海の景色や匂いを刺激して潜在記憶の中から何か引き出されるかもしれない。

(中略)

夢の中で発想を得たとか、お風呂に入っているときに発想を得たといったエピソードをよく耳にする。

化学者ケクレは、ベンゼン環の発想者として知られるが、原子の結びつきに関して、何度か夢をヒントに着想を得ている。

ある晩ケクレは、ベンゼン化合物の結合について考えている最中にうたた寝をした。夢の中で、原子が長い列をつくり、ねじれたり巻きついたりしながら、蛇のような運動をしていた。そのとき、一匹の蛇が自分の尾をくわえ、輪になってグルグル回った。この夢をヒントに、ケクレは炭素原子を輪につないだ。その後ベンゼン環と呼ばれることになった化学結合である。ケクレは、夢に学ぼう、そうすれば私たちは真理を発見できるだろうと言う。ただし、夢に見たことは目覚めた心で理解し、証明する前にむやみに公表しないように用心しよう¹⁾と注意も促している。

常識を破る発想は、現実的な縛りの緩まった状態で浮かんでくることが多い。ゆえに、夢のように無意識に漂っているときにヒントが浮かんできやすい。それを現実の問題に当てはめるには、醒めた意識で冷静に検討する必要があるのだが、いったんは現実の縛りから解放されないと、常識を破る発想を得ることはできない。

出典：榎本 博明「記憶の整理術」(株)PHP研究所 二〇一二年五月六日発行

問一 この文章に二〇字以内で適切なタイトルをつけなさい。

問二 文中の傍線部のようにケクレが言っている理由を二〇〇字以内で述べなさい。

問三 医学において常識を破る発想するにはどうしたら良いかを「潜在記憶」という言葉を入れて六〇〇字以内で述べなさい。